乳幼児の 眼の外傷への対応

- 注意する症状は
  - ❶まぶたを開くことができるか
  - ❷見え方は変わったか
  - ❸全身症状はあるか
- 痛みの強さで傷害の程度は判断できず、症状は受傷後すぐに現れるとは限らない
- 現場の応急処置が大切



眼の外傷発生
→ まぶたを開くことができるか
- できる → 受傷前と見え方は変わったか
  - 変わらない → 経過観察
  - 見にくくなった → 早急に眼科を受診
  - 二重に見える → 早急に眼科を受診
  - 見えない部分がある（飛蚊症が始まる） → 早急に眼科を受診
- できない → 全身症状はあるか
  - ない → 早急に眼科を受診
  - ある（吐き気・嘔吐等） → 早急に眼科を受診



広い範囲(眼球から視神経)の傷害で起こります。
角膜損傷・虹彩炎・眼内出血・黄斑円孔・視神経管骨折

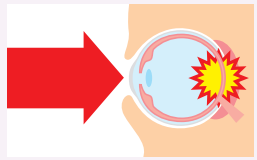
眼窩の骨・筋肉・神経の傷害で起こります。
眼窩壁骨折・動眼神経麻痺・外眼筋損傷

眼球の後部の傷害で起こります。
眼内出血・硝子体混濁・眼底出血・
網膜剥離・網膜変性・黄斑円孔
※飛蚊症とは：糸くずやゴミのようなものが浮いて見える状態

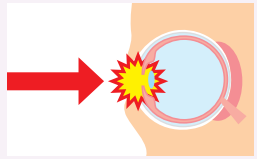
眼球前部や眼瞼の筋肉や神経の傷害で起こります。
眼瞼筋肉損傷・動眼神経麻痺・角膜や結膜の損傷

眼窩や眼球の傷害が重症のときに起こります。
眼窩壁骨折・眼球破裂

友だちの頭やボールなど大きいものが当たる：
眼球後部が傷害される。



友だちの指や枝など小さいものが当たる：
眼球前部が傷害される。



眼の外傷に対する大切なポイント

- 特に注意すべき症状は、
  ❶まぶたを開くことができるか ❷見え方は変わったか ❸全身症状はあるか、です。
- 眼の**傷害の程度は、痛みの強さでは判断できません。**
  傷害が眼球前部の場合は痛みを強く感じますが、眼球後部の場合の痛みは眼球前部ほどではありません。
- 眼球の後部（硝子体・網膜）の傷害の症状は、時間が経ってから現れることがあります。
- 現場での応急処置が、とても大切です。

現場の応急処置のポイント

- ☑ まぶたを無理に開かない
- ☑ 眼を強く押さえない
- ☑ 眼に異物が入らないように覆う
- ☑ 眼と眼の周辺を清潔に保つ
- ☑ 眼に消石灰が入ったときはよく洗う
- ☑ 判断ができないときは冷やさない